



新入生の皆さん「入学おめでとうございます。」皆さんが充実した有意義な学校生活を送れるよう図書館ではたくさんの本をラインナップして待っています。きっと**素敵な本に出会う**ことができますよ。

## 「図書館」で「ハイカ」ってどんな字を書くのがいいの？

ある日、図書館にやってきた生徒が「先生が図書館に来てから『配架』って言葉が『排架』に変わったけど、何か意味があるの？」と面白いことに気がきました。なぜ図書館では「ハイカ」を「排架」と表記するのでしょうか？調べてみると、「排」は「一定の順序で連ねる」とあり、「配」は「割り当てる」とあります。ですから「排列」は法則や約束事など一定の基準に従って順序よく並べることであり、「配列」はただ並べることです。よって図書館資料を分類順・請求記号順など一定の法則で並べることを表現する場合は、「配架」とするより「排架」とするほうがふさわしいようです。なお、「配列」が「排列」より一般化したことについては、「排」という字が「排斥」「排除」など主として「しりぞける」意味に用いられ、「ならべる」意味で「排」を用いる例が、一般語としては他に見当たらないためであると考えられています。



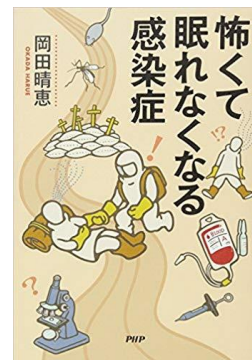
(参考：香川県立図書館・福井県立図書館のレファレンス事例、「図書館情報学用語辞典」「大漢語林」)

あなたの通っていた「図書館」の資料は「排架」されていませんか？それとも「配架」されていませんか？ 桐一の「図書館」は「排架」されています。北欧の「知識の壁」といわれるスウェーデン・ストックホルム図書館の膨大な資料も分類法によって排架されています。

但し、「絵本コーナー」は本の大きさが極端に異なるので、見やすく取りやすいよう大きさを揃えて配架しています。

## 心に残る言葉 心に残る1冊を届けたい！！

新型コロナウイルスの感染拡大によりWHO(世界保健機関)が「パンデミック(感染症の世界的流行)宣言」をして、世界中が大混乱に陥りました。学校は休校となり、図書館からも生徒たちの笑顔が消えてしまいました。そんな時、朝日新聞DIGITALが、「休校の今、皆さんに伝えたいこと イタリアの校長が話題」というニュースを伝えていました。新型コロナウイルスで休校になった高校生に宛てた校長のメッセージです。



「(略) 冷静さを保ち、集団のパニックに巻き込まれないこと。そして予防策を講じつつ、いつもの生活を続けて下さい。せっかくの休みですから、散歩したり、**良質な本を読んでください**。体調に問題がないなら、家に閉じこもる理由はありません。スーパーや薬局に駆けつける必要もないのです。マスクは体調が悪い人たちに必要なものです。(略) 見えない敵に脅かされた時、人はその敵があちこちに潜んでいるかのように感じてしまい、自分と同じような人々も脅威だと、潜在的な敵だと思い込んでしまう、それこそが危険なのです。(略)」  
「インフォテミック」(不確かな情報の拡散)によって、店頭からトイレットペーパーやマスクが消えてしまうという異常事態が起きました。またアジア人に対する差別、暴力が報じられました。そんな社会情勢の中、このメッセージは多感な高校生の心にどう響いたのでしょうか。

そして今、**子供たちに心に残る本を届けたい**と思いながら私は図書館を開けています。

	図書館の利用状況 (2015~2019年度 3月まで)						3/31現在			
	2015 (H27) 年度		2016 (H28) 年度		2017 (H29) 年度		2018 (H30) 年度		2019年度	
	3月	4~3月	3月	4~3月	3月	4~3月	3月	4~3月	3月	4~3月
利用者数	185	6228	352	6408	281	7043	0	4759	47	15140
本貸出数	76	1843	66	1336	70	2025	75	2071	47	3832
開館日数	14	177	14	191	10	192	0	104	1	173

※ 2018年度は10月27日以降**司書不在**のため「利用者数」「開館日数」の統計はありません。

# アクティブラーニングの拠点を目指して！！

ある司書が学校図書館を「第二の保健室」と呼びましたが、それは教育課程にそぐわないようです。「学習指導要領」では「生徒の主体的・対話的で深い学び」を実現する場所と謳われています。教育課程において「探究活動」を実践するには「ICT活用」が不可欠なものとなりますが、それ以上に「図書館資料」の活用が重要となります。「生徒の主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「桐一図書館」では**アクティブラーニングの視点に立った授業改善を推進**するため総合探究の授業で「課題の探究」と「調べ学習」「資料作成」「発表会」等を行っています。ここでは「何を学ぶか」も大切ですが、「何ができるようになるか」を重視した**「資質・能力の育成」**を目標に指導しています。「桐一図書館」は、能動的に発見学習・問題解決学習・体験学習・調査学習ができるよう環境を整え、**アクティブラーニングの拠点**となることを目指しています！

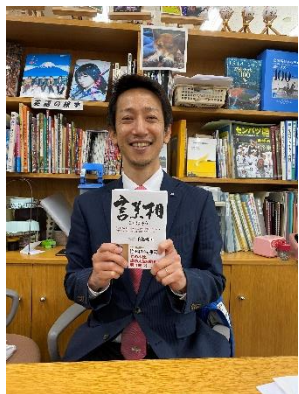
生きる  
子どもたちの  
資質・能力

暗記した知識と異なり、  
資質・能力は、  
忘れることも、無くなることも、  
ありません。

JAM HOUSE

## 「創立120周年」に向かって、新しいプロジェクトの発進！

教頭の「高島靖明」先生の登場です。高島教頭は「まんが スポーツで地域活性化」の『バスケットで秋田を元気に』でその活躍が紹介されています。桐一ではどんな活躍をみせてくれるのか？！



Q：「桐一生」の印象を聞かせてください。

A：キリイチ生は多様な生徒さんの集まりだと思っています。たくさんのコースがあって、まるで『幕の内弁当』みたいです！ダイバーシティですね。

Q：学校では、今後新しい行事や活動をする予定はありますか？

A：来年2021年はキリイチ創立120周年です。No1を目指して「**こんな学校にしようよ！プロジェクト**」をスタートさせたいですね

Q：教頭先生にとって理想の「図書館」とはどんな場所ですか？

A：素晴らしい図書館がある学校は人気がある！？といわれるくらい今注目されています。**学年を越えて集まれる大切な「居場所」**であって欲しいですね。

Q：みんなへの「オススメの1冊」を紹介して下さい。

A：「**言葉相(ことばそう)**」です。手相と同じく言葉にも「相」があり、**日々良い言葉を使うことが良い未来を創っていく**ことを学びました。『今までの人生は今まで吐いた言葉でできていて、今からの人生は今から吐く言葉でできていく』というメッセージが心に残っています。

## 図書館の利用と活動について

本校の「図書館利用規定」の「第1章 総規」 第1条に「本校の図書館を利用することの出来るものは次の通りである。」として「1. 本校教職員 2. 本校生徒 **3. 父母の会会員**」となっております。お子さんの送迎の際の待ち時間や学校開放日などで学校へおいでの際は、**是非「図書館」を利用して下さい。**（「貸出」もしていますので、本をカウンターにお持ち下さい。）

図書館は「**朝7:10開館、夕方6:00閉館**」です。新着情報、お薦め本、特集などは、毎月発行している「**図書館だより**」に掲載しております。「図書館だより」をご希望の方は生徒を通じてお申し出いただければ配布いたします。（学校のHPでもご覧になれます。）詳しい開館情報は「**図書館カレンダー**」で確認して下さい。たくさんのご利用をお待ちしております。

また昨年の秋に実施しました「**リサイクル活動**」は、今年度は1年を通して実施します。ご家庭で読み終わった小説、ライトノベルズ、絵本など不要になった本がありましたら図書館に持って来て下さい。集まった本は「図書館で排架する」「学童などの施設や病院、幼稚園に寄贈する」「生徒たちに配布する」「廃棄する」のいずれかの措置を取らせていただきます。新入生には後日依頼状を配布いたしますので、ご確認ください。たくさんの方々の協力をお待ちしています。よろしく願いいたします。

